

アシックス里山スタジアム、 数千人の観戦客とスタッフ向けに 快適・安定的なWi-Fi環境を提供

「Mist AI」で、大規模なゲストWi-Fiも、止められないサービスも統合管理

Jリーグプロサッカーチーム・FC今治のホームであるアシックス里山スタジアムでは、大勢の観戦客や来場者向けサービスを提供するショップ、FC今治やスタジアムの運営スタッフなど、大勢のユーザーが利用するスタジアムWi-Fi環境を整備するため、ジュニパーネットワークスの「Mist」を選定した。スタジアムの屋内外に設置する多数のアクセスポイントとそれらをEthernetでつなぐスイッチをリモートから一元管理でき、安定的なネットワーク接続を維持するためのAIも備えているため、トラブルなしの快適なWi-Fi環境を維持できるようになった。

スタジアム運営に欠かせない 施設全体をカバーする大規模Wi-Fi

アシックス里山スタジアムは2023年1月、愛媛県今治市をホームタウンとするプロサッカークラブ・FC今治の新しいホームスタジアムとして建設された。FC今治を運営する今治・夢スポーツのグループ会社によって整備された、日本では数少ない“民設民営”のサッカースタジアムである。

今治市は、戦国時代に瀬戸内海で活動した日本最大の海賊・村上水軍（村上海賊）の名でも知られている。そこでアシックス里山スタジアム全体が海賊船に見立てられた。デッキ（ピッチ）で奮戦する海賊・FC今治のクルーを応援する観戦者は、桟橋を渡って乗船する。監督やコーチが作戦を練るキャビン、運営本部やクルーのオフィスが設置されるブリッジ、試合を中継するブースとなるコンテナ——といった具合である。将来的には上位リーグのスタジアム基準を満たす施設への強化・拡張を視野に入れて造られたとのことだ。

ただし、アシックス里山スタジアムは単にサッカーの試合を楽しむためだけの施設ではないと、建設をリードした株式会社今治・夢スポーツ 経営企画室 兼 里山スタジアム統括グループの中川寛之氏は述べる。

「美しい今治の自然や景観を望みながら、人と人とが交流し、地域住民の心のよりどころとなる開放的な里山の施設を目指しました。スタジアム本体である海賊船のほか、周辺にはカフェやドッグラン、複合福祉施設、キャンプやコンサートに利用できる交流施設なども整備されており、試合のない日でも里山を大いに楽しむことができ

ます。里山のファームでは、畑で採れた野菜をカフェの料理に活用したり、ワイン造りを目指してぶどうを植えたりしていますし、新設されたFC今治高校の生徒達が利用できる畑も用意しました。地域と私たちとがいっしょに作り上げている里山を、ぜひ皆さんに楽しんでいただきたいと思います」（中川氏）

※海賊船 | アシックス里山スタジアム

中川氏らがアシックス里山スタジアムの建設にあたり、注力した設備の1つがITである。例えばJリーグの観戦チケットは、QRコードとして配布される電子チケットがメインだ。試合のある日はキッチンカーで賑わうが、その支払いにはオンライン決済が中心である。もちろんカフェや複合福祉施設、チームや施設を運営するスタッフの業務にもITは欠かすことはできない。こうしたITの基礎となる高速ネットワークサービスは、Jリーグの基準でも整備が必要と定められている。広い施設のほとんどが野外のため、もちろんWi-Fi環境が必須である。

「数千人規模の観戦客向けにWi-Fiサービスを提供するのですし、決済やチケットのサービスが停止するわけにもいきません。私たちのオフィスやスポンサー企業向けのスイートルームも、業務環境としてWi-Fiは欠かせません。非常に大勢の不特定なユーザーが、長時間にわたって、屋内でも屋外でも快適に利用できるWi-Fi環境を整える必要があったのです」と、中川氏は当時を振り返る。この厳しい条件を満たす無線と有線LANソリューションとして選ばれたのが、ジュニパーネットワークスの提供する「Juniper Access Points & EX Series Switches」であった。



株式会社今治・夢スポーツ
経営企画室 兼
里山スタジアム統括グループ
中川 寛之 氏



株式会社今治・夢スポーツ
里山スタジアム統括グループ
グループ長
遠藤 政樹 氏

大規模Wi-Fiに最適なJuniper Mist 屋外でも屋内でも快適なネットワークを維持

アシックス里山スタジアムのITを担ったパートナー企業は、品質、安定性、経済性の観点からJuniper Mistを推薦した。スタジアムなどの建屋内だけではなく、駐車場や交流施設などの屋外を含む広い敷地に大規模なWi-Fiネットワークを張り巡らせるには、高品質なサービスを安定的に提供するための多数のアクセスポイントを容易に運用管理できること、またコストパフォーマンスが重要であるためだ。くわえて、リモートから統合的に管理できるクラウドコントローラ型であることが望ましい。さらに、施設内を移動するユーザーが快適に利用できるように、アクセスポイントが相互に連携し、デバイスにとって最適な接続状態を保つような高度なローミング制御機能も必要だ。Juniper Mistは、こうした条件をクリアする最適な製品だった。

アシックス里山スタジアムでは、オフィスやラウンジなど海賊船内部はもちろん、建屋の外壁、スタジアムの観客席周辺、スタジアム周辺の電灯など、観客やスタッフが滞在する場所を中心に数多くのJuniper APを配備した。Juniper Mistには、AIがクライアント目線では環境を学習して電波を最適化し続けるなど、トラブルを未然に防ぐ仕組みが搭載されている。また万が一トラブルが発生したときには、運用を担当する事業者に連絡するだけでよい。Juniper Mistはクラウドコントローラを介してネットワーク全体の詳細な状況を確認でき、多くの問題はリモートから対処できるようになっているためだ。エンジニアの到着を待つ必要もなく、スピーディに問題を解決できる。

アシックス里山スタジアムのWi-Fi整備にあたっては、ディストリビューターであるネットワンパートナーズが縁の下力持ちとして活躍した。ネットワーク運用を担当するパートナー企業を支援し、いわゆる障害時の保守サービスのほか、実機を用いた技術トレーニングや検証機器の貸し出し、構築時のQA対応などのサービスを提供している。国内でいち早くJuniper Mistを取り扱っていたネットワンパートナーズは、さまざまなノウハウやデータを蓄積しており、アシックス里山スタジアムの高度な活用を強力に支援した。

また上述したように、スタジアムの内外に多数のJuniper APを

設置して高密度にエリアをカバーする計画だったが、コロナ禍や半導体不足で機器の調達が困難な時期でもあった。そこをネットワンパートナーズがジュニパーネットワークスと連携して支援し、短い納期を維持することができた。

「観戦客は簡単なメールアドレス登録だけで非常に高速なインターネットを楽しめますし、私たちや協力会社などスタッフの業務環境も非常に快適です。トラブルなしで安定的なWi-Fiネットワークが維持されているので、FC今治の活動、カフェやキッチンカーの運営など、アシックス里山スタジアムを支える皆さんを私たちも支援できているのではないかと考えています」と、スタジアムの運営を担う株式会社今治・夢スポーツ 里山スタジアム統括グループ グループ長 遠藤政樹氏は述べる。

スタジアムの成長を支えるJuniper Mist 将来的な課題も先進技術に期待

アシックス里山スタジアムは、今後も設備強化を計画している。FC今治が活躍して上位リーグに昇格していけば、スタジアムに求められる機能やサービスもますます高度なものとなっていく。その多くはITによって支持されるもので、下支えとなるネットワーク環境の重要度はいよいよ増していく。

「将来的には大型ビジョンを設置したいと思っていますし、宿泊施設なども必要となるでしょう。スタジアムだけでなく周辺施設を含めて成長していくことを想定していますので、それを支えるネットワーク設備も非常に重要な役割を担うと考えています。Juniper Mistは位置情報など高度な機能を有しており、さまざまなサービスに活用できると聞いています。FC今治とアシックス里山スタジアムの発展に伴って、さまざまな新しい課題も生まれてくると考えています。そのときMistの応用で解決できることがあれば、積極的に提案してほしいと願っています」（中川氏）

アシックス里山スタジアムは、試合のある日もない日も大人も子どもも楽しめる、いっそう魅力的な施設へと成長していくに違いない。Juniper Mistの高い拡張性と高度な先進技術、ネットワンパートナーズの豊富なノウハウと専門的な技術力によって、アシックス里山スタジアムの成長を力強く支えていくことだろう。

